

事業の概況

1. 経営環境

2022年度上半期における当社グループを取り巻く経営環境は、新型コロナウイルス感染症対策や各種政策の効果もあって、経済社会活動の正常化が進んでおり、景気を持ち直しの動きがみられました。しかし、世界的な金融引き締め等を背景とした海外景気の下振れが懸念されたことや、円安等による原材料や燃料費の高騰などを背景に、先行きが不透明な状態が続きました。

2. 営業の概況

ほくほくフィナンシャルグループ

連結経常収益は、前中間期比90億円増加して969億円となりました。その主な要因は、資金運用収益の増加と株式等売却益の増加を主因とするその他経常収益の増加によるものです。

一方、連結経常費用は、前中間期比136億円増加して824億円となりました。その主な要因は、営業経費が減少しましたが、国債等債券売却損の増加を主因とするその他業務費用の増加と株式等償却や与信コストの増加を主因としたその他経常費用の増加によるものです。

この結果、連結経常利益は、前中間期比45億円減少して145億円となりました。

親会社株主に帰属する中間純利益は、経常利益が45億円減少しましたが、税金費用の減少により、前中間期比38億円減少の93億円となりました。

連結自己資本比率は、9.61%となりました。

当社グループ連結の預金・譲渡性預金の当中間期末残高は、個人預金、法人預金が増加したことにより、前中間期末比3,279億円増加して13兆2,828億円となりました。貸出金の当中間期末残高は、事業性貸出、個人ローンが増加したことにより、前中間期末比2,126億円増加して9兆3,110億円となりました。有価証券の当中間期末残高は、前中間期末比508億円増加の2兆1,147億円となりました。

普通株式配当につきましては、期末一括配当1株当たり35円を予定しております。なお、優先株式は所定の間配当とさせていただきます。

北陸銀行

コア業務粗利益は、前中間期比10億円増加の345億円となりました。コア業務純益は、前中間期比19億円増加の144億円となりました。経常利益は、前中間期比62億円減少の61億円となりました。中間純利益は、前中間期比50億円減少の42億円となりました。自己資本比率は、9.36%となりました。

預金・譲渡性預金の当中間期末残高は、前中間期末比1,297億円増加し、7兆5,111億円となりました。

貸出金の当中間期末残高は、前中間期末比1,886億円増加の5兆1,676億円となりました。有価証券の当中間期末残高は、前中間期末比316億円減少の1兆2,294億円となりました。

連結経常収益は前中間期比104億円増加の530億円、連結経常利益は前中間期比62億円減少の61億円、親会社株主に帰属する中間純利益は前中間期比50億円減少の42億円となりました。

北海道銀行

コア業務粗利益は、前中間期比7億円増加の291億円となりました。コア業務純益は、前中間期比19億円増加の114億円となりました。経常利益は、前中間期比16億円増加の91億円となりました。中間純利益は、前中間期比11億円増加の63億円となりました。自己資本比率は、9.08%となりました。

預金・譲渡性預金の当中間期末残高は、前中間期末比1,975億円増加し、5兆7,986億円となりました。

貸出金の当中間期末残高は、前中間期末比209億円増加し、4兆1,538億円となりました。有価証券の当中間期末残高は、前中間期末比835億円増加の8,791億円となりました。

連結経常収益は前中間期比同水準の372億円、連結経常利益は前中間期比15億円増加の85億円、親会社株主に帰属する中間純利益は前中間期比9億円増加の56億円となりました。

ほくほくフィナンシャルグループの事業の概況やESG・SDGsへの取り組みについて、詳しくは、ミニディスクロージャー誌(2023年3月期・営業の中間ご報告)に掲載しております。



CONTENTS

事業の概況	01
企業概要	02
中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組の状況	03
地域活性化のための取組の状況	05
財務データ	06

- 本誌は、銀行法第21条および第52条の29に基づいて作成したディスクロージャー誌です。
- 本資料に掲載してある計数は、原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しています。
- 本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化などにより、見通しと異なる可能性があることにご留意ください。